

## 令和3年度 馬城会総会（書面）の概要等について（報告）

## 1 令和3年度第1回馬城会理事会について

新型コロナウイルスの蔓延により東京都など全国各地で緊急事態宣言下であり、当然、県外の支部の理事さん方は出席不可と予想されたが、役員改選の年にも当たるので、去る7月8日、1年振りに、馬城会理事会を開催した。

まず、総会の議案の検討から。令和2年度の事業報告、決算報告では、全支部負担金免除を改めて報告した。

次に、令和3年度の事業計画（案）、予算（案）について議論の中で、各支部の現状が報告され、欠席支部の状況は事務局から報告された。

その中で、支部総会等への参加者減、特にコロナ禍で支部の集まりもできず、それらに伴い、支部負担金徴収の厳しい現状が報告され、その減額について、相馬支部、京浜支部はじめ、いくつかの支部から切実な要請があった。理事会では、減額やむを得ないという結論に達し、総会に判断を委ねることとなった。

役員改選については、村山会長から、当初2年だけという約束でお引き受けしたのではという話があった。

しかし、佐々木副会長から、昨年からのコロナ禍の現状、馬城会諸事業の休止などを鑑み、本部役員全員留任の方向での提案があり、その方向で総会に諮ることとなった。

おわりに、昨年に引き続き、今年度も書面総会とすることに決定した。

## 2 令和3年度馬城会総会（書面）の概要について

書面総会の議案書は、本部、各支部の役員、相馬支部の常任理事、理事、一昨年の総会の出席者、各支部総会の出席者、記念誌の執筆者など計127名に8月4日付で送付しました。

議決権行使書により、議案第1号から第5号まで、8月末日までに返信のあった91名全員、全議案に賛成の意思表示を得ました。返信のなかった36名も含め全127名が賛成となり、提案された事項すべてについて可決する旨の総会決議があったものとみなしました。

## 議案第1号 令和2年度事業報告

令和2年	令和3年
7月2日（木） 会計監査	2月10日（水）第2回理事会【書面】
7月9日（木） 第1回理事会	2月26日（金）馬城会入会式
8月22日（土）馬城会総会【書面】	3月1日（月）相馬高校卒業式
〃 相馬支部総会【書面】	4月8日（木）相馬高校入学式
	5月30日（日）原町支部総会〈石神生涯学習センター〉

（\*会場は、原町支部総会以外、すべて相馬高校）

## 議案第2号 令和2年度収支決算概要（令和2年7月1日～令和3年6月30日）

収入の部：	予算額	2,494,000円	決算額	1,843,139円	（全支部負担金免除のため収入減 △650,861円）
支出の部：	予算額	2,494,000円	決算額	1,168,609円	

収入計	1,843,139円
支出計	1,168,609円
差引残高	674,530円 (次年度へ繰越)

支出の部 決算額 1,168,609 円のうち、決算額の大きな順ベスト3は、下記である。

積立金	500,000円、
印刷費	280,080円 (馬城会報代等)、
事業費	250,000円 (部活動激励金)

《 積立金に関する調書 》 令和2年度末現在高 4,102,844円

### 議案第3号 令和3年度事業計画

- 1 母校の記念式典等のための資金として積立をする。
- 2 同窓会員名簿の整備に務め、会員の拡充を図る。
- 3 文武活動の奨励を目的として東北大会以上の大会出場者へ激励金を交付する。
- 4 校舎等設備の支援活動
- 5 その他目的達成のための事業

### 議案第4号 令和3年度収支予算概要

1 収入の部	1,865,000円	(前年度比 △629,000円*)	*主な科目の減額	支部負担金	△ 370,000円
				繰越金	△ 228,621円

収入の部は、主に次の3科目である。

馬城会入会金	745,000円
繰越金	674,530円、
支部負担金	445,000円 <sup>(註)</sup>

(註) 内訳	・相馬 300,000円 (△240,000円)	・仙台 40,000円	・原町 15,000円
	・京浜 30,000円 (△120,000円)	・福島 20,000円	・鹿島 10,000円
	・郡山 5,000円 (△5,000円)	・新地 20,000円	
	・茨城 5,000円 (△5,000円)	・小高、双葉、山元支部は、活動していない。	

2 支出の部	1,865,000円	(前年度比 △629,000円**)
--------	------------	--------------------

**減の主な科目	積立金	△ 400,000円
	交際費	△ 60,000円 (各支部総会出席旅費等)
	報償費	△ 40,000円 (総会事務局日当等)

予算総額は約25%も減少したが、生徒たちの活動への支援は、前年度と同様600,000円とした。

その結果、支出の部最大の予算科目である事業費(部活動(東北・全国大会)激励金等)の占める割合は、全体のおよそ1/3近くを占めることとなった。

今年度の積立金予算額は100,000円とした。

## 議案第5号 役員改選

今回、全員留任の案が可決され、令和3年度と4年度の2年間、下記の役員で馬城会を運営することになりました。

			(支部)	(出身地区)
会長	村山 正之	昭36 普卒	新地	駒ヶ嶺
副会長	佐々木政喜	昭35 普卒	相馬 (支部長)	中村
副会長	佐藤 昌利	昭38 普卒	仙台 (支部長)	山上
副会長	岩井 雄一	昭39 普卒	福島 (支部長)	中村
副会長	荒 安明	昭41 普卒	京浜 (支部長)	中村
監事	遠藤 政弘	昭40 普卒	相馬	八幡
監事	青田 秀満	昭43 普卒	相馬	大野
監事	臺内 吉重	昭49 普卒	相馬	日立木

なお、お世話になる事務局は、母校相馬高校内にあります。事務局長は、今年度も

**今野 直樹先生** 昭57 普卒 八幡出身

です。

### 3 会長あいさつ

今回、書面総会となりましたが、役員全員留任の案にご賛同いただきました。ありがとうございます。

新型コロナウイルス禍のこの2年近く、母校の卒業式や入学式も簡略化され、また、人と人が顔を合わせる機会は遠ざかり、同窓会の活性化が一層大きな課題となっております。

役員一同、会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与するという本会の目的の原点に立ち返り、気持ちを新たにしているところです。どうぞよろしく願いいたします。

さて、馬城会は、相馬中学校第1回卒業生が船出した明治36（1903）年に結成されました。

したがって2023年には、120周年となります。

その間、時代の荒波の中で懸命に生きてきた先輩の方々をはじめ平和や地域の発展に貢献した輝かしい幾多の俊英を輩出し、馬城会の歴史と伝統が築かれてまいりました。

相馬高校ホームページ「卒業生の皆様へ」の中に『馬城かわら版』と称する記事を載せております。

現在、主に「相中相高八十年」や「相中相高百年史」等の記念誌から転載しております。

その中で、5年間あるいは6年間在籍していた相馬中学校時代の大先輩そして高等学校になってからの方々の「思い出の記」には、多感な十代を過ごした各時代が手に取るように見事に活写されております。

「相馬高校 馬城会」とキーワードを入れると検索できます。

是非ご覧いただき、時を越えて結ばれている同窓の絆を一層深めて頂ければ幸いに存じます。